

情報統合研究事業 ガーディアンロボット (次世代ロボットの研究開発)

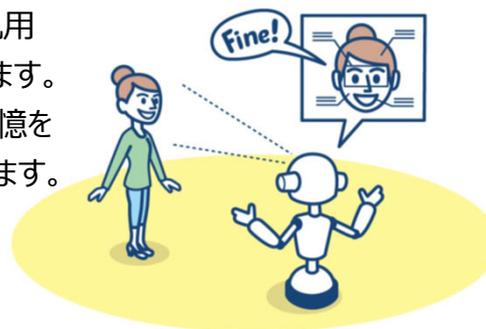
①実施概要

ロボットと人が共存する未来社会を見据え、主体的に人と関わり、汎用的に人を支援する自律ロボットの実現を目指す研究開発を進めています。万博では人の潜在的な意図の推察、ロボット自身の経験から得た記憶を利用した人とのコミュニケーションを自律的に行うロボットの実証を行います。

(実施主体) 国立研究開発法人 理化学研究所

(実施場所) 会場内: テーマ館 (石黒P) + 会場内: FLE会場

(実施期間) テーマ館では全期間、FLE会場展示は一週間



②今後の実施方針

実施主体である理化学研究所において研究開発を進めます。FLE会場における展示の目標として、環境内を見回りながら、人や物に対する情報を集め、ロボット自身の記憶やその場の情報に基づいたコミュニケーションを行いながら、生活に寄り添い、生活をサポートするロボットの開発を進めます。テーマ館においては上記のシステムの機能の一部を切り出して、テーマ館のテーマに合わせた仕様や展示内容の実現を目指し、実装に向けての調整を行います。

③予算

令和5年度予算額: 54,770百万円の内数

(国立研究開発法人理化学研究所運営費交付金)

④工程表



自動配送ロボットによる配送サービスの提供

①実施概要

・自動配送ロボットによる万博会場内での配送サービスの実施により、会場の利便性向上等を図る。

(実施主体) 民間企業等

(実施場所) 会場内

(実施期間) 万博開催期間中

※自動配送ロボットの例



ZMP



パナソニック

②今後の実施方針

- ・引き続き、複数台の自動配送ロボットを安定的に同時走行させるための技術開発や実証の支援を行う。
- ・自動配送ロボットの認知度や社会受容性の向上のため、シンポジウムの実施等、周知・普及に関する取組を行う。

③予算

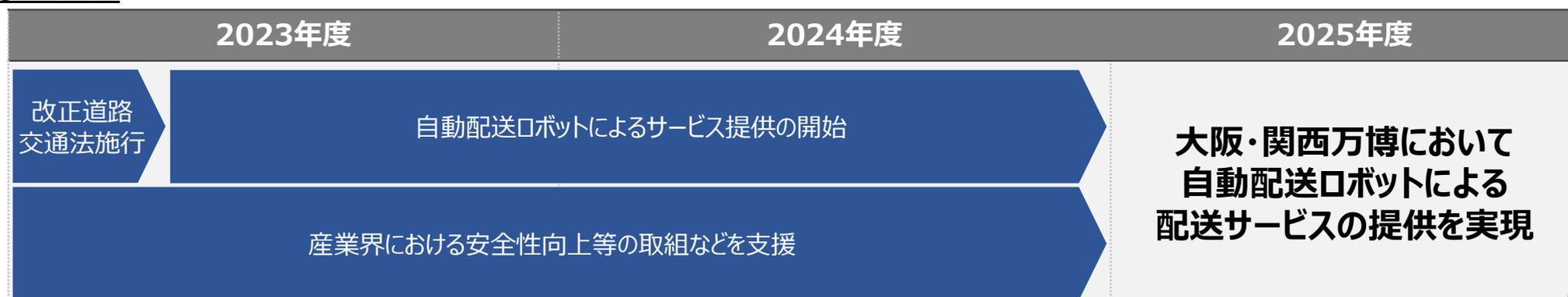
(革新的ロボット研究開発等基盤構築事業)

令和5年度予算額：1,017百万円の内数

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/ip/sangi_10.pdf

令和4年度予算額：948百万円の内数

④工程表



ロボットフレンドリーな環境の実現

連絡先 経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室
03-3501-1511 (内線) 3819~3820

①実施概要

・ロボットが働きやすい“ロボットフレンドリーな環境”を会場内に構築し、ロボットによる施設内搬送、店舗内陳列といったサービス等を実施または展示することで、日々の生活の豊かさにロボットが寄与する未来の具体的なイメージを提供する。

- (実施主体) 民間企業等
- (実施場所) 会場内(メッセ)
- (実施期間) 一部期間

※右図はイメージ例



②今後の実施方針

・引き続き、「革新的ロボット研究開発等基盤構築事業」に基づくロボットフレンドリーな環境の実現に関する研究開発を実施するとともに、関係各所との調整を進める。

③予算

革新的ロボット研究開発等基盤構築事業

令和5年度当初予算額：1,017百万円の内数

令和4年度当初予算額：948百万円の内数

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/ip/sangi_10.pdf

④工程表



宇宙を通じて、いのちを感じる



連絡先 内閣府宇宙開発戦略推進事務局
03-6205-7083
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課
03-6734-4153

①実施概要

「いのちを育む」をテーマとした河森正治プロデューサーのテーマ館において「宇宙を通じて、いのちを感じる」をコンセプトとして、万博会期中に火星圏到着予定の火星衛星探査計画（MMX：Martian Moons eXploration）に関する展示を行う。

MMXは小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」に続くサンプルリターンミッションである。火星の衛星フォボスからサンプルを持ち帰り、太陽系の中で水・有機物がどのようにして地球に供給され、生命が誕生したのかといった「いのちの起源」に迫る。

（実施主体）株式会社バスキュール、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

（実施場所）会場内テーマ館（河森P）

（実施期間）全会期中

②今後の実施方針

映像制作、シミュレーション映像作成等を行う。

③予算

—

④工程表



海洋関係の取組発信

①実施概要

地球環境問題や海底資源開発等をテーマに、海洋事務局や海洋関連団体の取組について、来場者(特に未来社会を担う若者)に関心を持ってもらうための展示を行う。

＜展示内容の候補＞

- ・海洋状況表示システム「海しる」のデモンストレーション
- ・「デジタル×深海」を基軸にしたコンテンツ・展示
(例、深海VRデモ 等)
- ・最新の研究成果紹介



②今後の実施方針

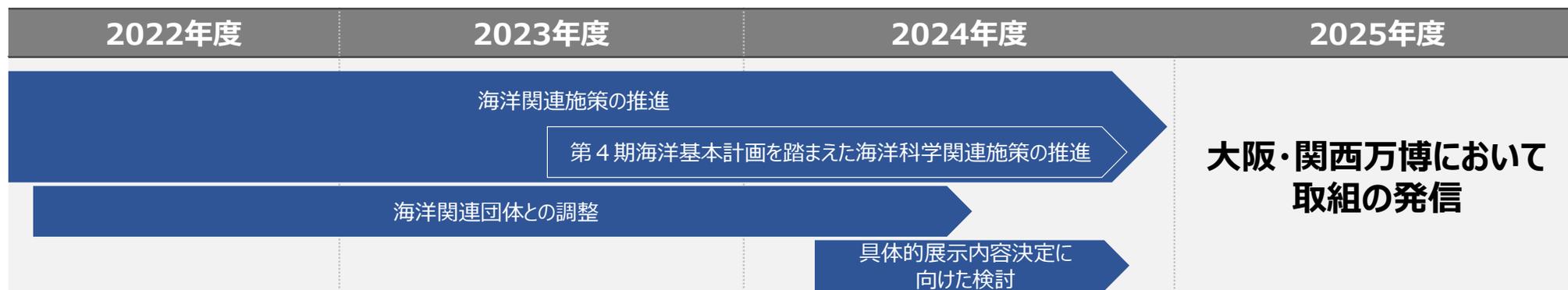
- ・展示を行う海洋関連団体との調整を引き続き行うとともに、海洋事務局においても、内容の具体化に向けた検討を行う。

③予算

—

(実施主体) 海洋事務局、海洋関連団体
(実施場所) 検討中
(実施期間) 検討中

④工程表



防災DXを活用した災害・対応情報の提供

①実施概要

- 防災科学技術研究所の防災DXの取組及びその他の研究開発の成果を活用し、準備期間(開始時期調整中)を含む全会期中において運営者に災害や安全に係る情報を適時適切に提供することで会場運営を支援する。
- 来場者等に対しても災害情報の提供等を行う。

(実施主体) 国立研究開発法人防災科学技術研究所、
I-レジリエンス株式会社

(実施場所) 会場内

(実施期間) 全会期中 (運営支援)



© I-レジリエンス株式会社

災害時の避難ルート情報の提供イメージ

連絡先 文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室
03-6734-4134

②今後の実施方針

防災DXに係る研究開発を継続し、運営支援に資する情報の検討・調整を行うとともに、提供手段についても検討を進める。

③予算

令和5年度予算額：7,877百万円の内数

(国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金)

[国民の安全・安心やフロンティアの開拓に資する課題解決型研究開発の推進 \(mext.go.jp\)](https://mext.go.jp/) (P22)

④工程表



リモートセンシング技術による高精度データの収集・分析・配信技術の開発

①実施概要

リモートセンシング技術を活用し、積乱雲などの立体的な雨雲を高精度に観測するマルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダー（MP-PAWR）で降雨データ等を観測し、スーパーコンピュータの解析で、これまでにない高精度な解析結果を運営スタッフ等へ分かりやすく提供する。特に、複数台のMP-PAWRによる特定地域の観測は世界初の試み。

（実施主体） NICT、理研(R-CCS)、その他関係研究機関、及び民間事業者等を想定

（実施場所） 博覧会協会向け：会場

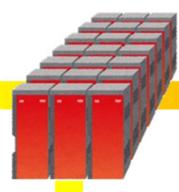
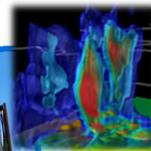
一般向け：研究機関のWebサイト等

（実施期間） 全会期中

高精度降雨データ等をスーパーコンピュータで解析・予測



大阪・神戸MP-PAWR



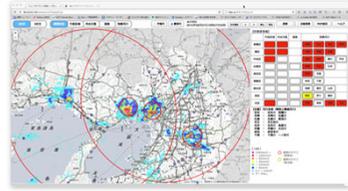
一般向け



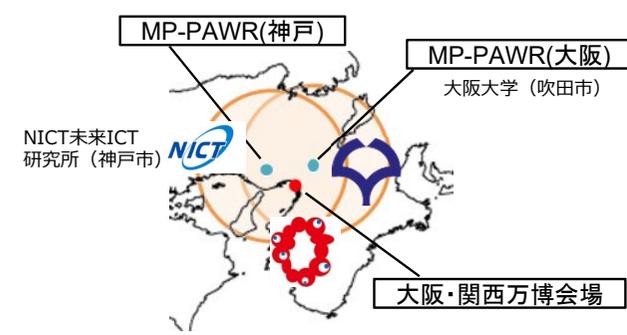
研究機関のWebサイト等

博覧会協会向け

エリアを絞った警戒情報や運営スタッフへのプッシュ通知



連絡先 総務省国際戦略局技術政策課研究推進室
03-5253-5730



②今後の実施方針

- ・膨大な高精度降雨データを伝送するための圧縮、復元技術を開発
- ・関係機関における連携の調整
- ・情報の提供方法の検討

③予算

令和4年度第2次補正予算額：1,300百万円

https://www.soumu.go.jp/main_content/000847499.pdf

④工程表

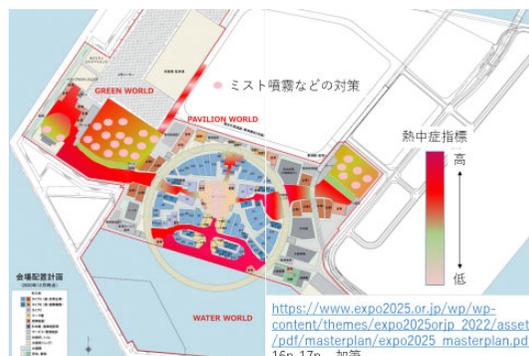


熱中症や高潮浸水の高解像度物理シミュレーションによる早期の情報提供

①実施概要

建物・樹木・人工島周辺環境を網羅した高精細のモデルである万博会場のデジタルツイン及び高解像度物理シミュレーションシステムを使って、会場各場所の熱中症や会場全体の高潮浸水の発生に関するシミュレーションを実現し、十分なリードタイムをもって博覧会協会に情報提供する。

- (実施主体) 都市丸ごとのシミュレーション技術研究組合
 (実施場所) 会場内屋外
 (実施期間) 熱中症：夏期連日、高潮：全期間



②今後の実施方針

- ・2023年度中に、国土交通データプラットフォーム（国交DPF）を用いた万博会場のデジタルツインの構築とシミュレーションシステムの開発を行う。（いずれも国産技術を活用）

③予算

令和4年度補正予算額：3,041百万円の内数
<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001520794.pdf> (P14 (10))

④工程表



各種警察活動における小型無人機の更なる活用等に向けた検討・調整

連絡先 警察庁警備局警備運用部警備第三課
(代表) 03-3581-0141
(内線) 5677

①実施概要

以下の研究開発の進捗に応じ、その成果の大阪・関西万博に係る警察活動への活用を検討する。

- (1) 小型無人機を含む運航安全管理技術
有人機だけでなく、無人機と連携した情報収集・共有等を安全かつ効率的に行える運航安全管理システム等の開発
 - (2) 災害・緊急時等に活用可能な長時間・長距離等の飛行を可能とする小型無人機技術
長時間・長距離（広範囲）の飛行に加え、悪天候下でも飛行可能な垂直離着陸機（VTOL）等の開発
- (実施主体) 警察庁等
(実施場所) 会場内及びその上空等
(実施期間) 開催期間前～期間中

②今後の実施方針

・経済安全保障重要技術育成プログラムにおける「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」に関する研究開発に参与する。



③予算

-

④工程表



ムーンショット型研究開発制度

①実施概要 ※記載以外の企画も今後追加していく可能性がある ※プロジェクトの進捗状況・見直し等により内容の変更がありうる

(1)9目標が実現する2040年、2050年の未来社会像のイメージを紹介【FLE, 会場外】
未来社会像のイメージを描く動画やバーチャルコンテンツの展示、国際シンポジウム(会場外)を開催

(2) 9目標で実現されるであろう技術や製品につながる研究成果物を紹介【FLE】

未来の行動・・・ロボット・アバターが共生する生活やコミュニケーション、未来の気象・地球環境の体験

例：・サイバネティック・アバター(CA)(目標1)やAIロボット(目標3)の
実物(参考：右写真)やバーチャル展示

- ・未来のコミュニケーションの疑似体験(目標9)
- ・豪雨を鎮める気象制御(目標8)、Cool Earth & Clean Earthを実現した持続的な資源循環社会の体験(目標4)

未来のヘルスケア・・・未来の健康管理や診断、病気になる前の治療を
体験する展示とステージイベント

例：・生体内CAによる健康可視化(目標1)、健康測定技術(目標2、目標7)
・AIロボット群による支援やサービスなどの体験(目標3)

未来の食・・・「2050年の食と農」をテーマとした体験展示

例：・微生物になってミクロの世界を探検するVR体験(目標5)



OriHime: 障がい者など多様な人々が制約から解放されて社会参加するためのアバター (写真提供：内閣広報室)



②今後の実施方針

2023年の取組

- ・MS目標が実現した世界を体験できる展示物、デモ、ビデオ等の制作
- ・本企画にて紹介する成果物の候補や展示方法について検討
- ・MSシンポジウムの開催、国際シンポジウム、その他関連イベントの企画準備
- ・未来社会像の表現方法の調査

③予算

平成30年度補正予算で1,000億円、令和元年度補正予算で150億円を計上して基金を造成。
令和3年度補正予算で800億円を追加。

④工程表

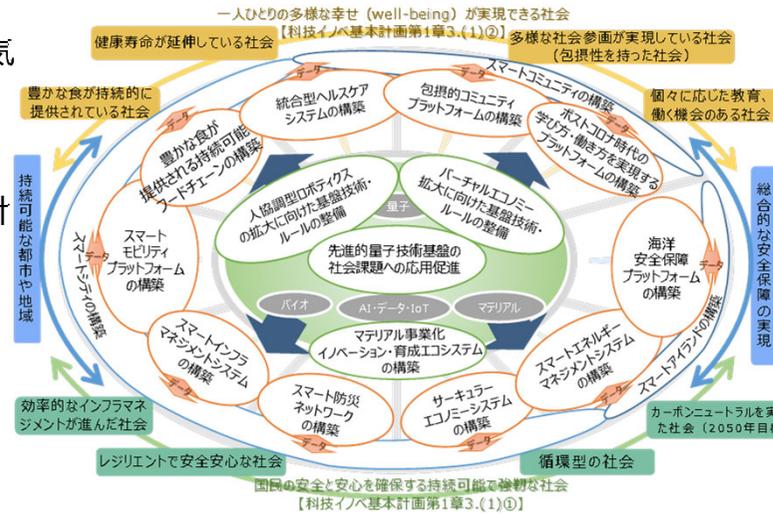
	2023年度	2024年度	2025年度
FLE (期間展示・ ステージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・9目標が実現する未来社会像のイメージを紹介する動画を制作(内閣府科技、各FA) ・成果物の候補や展示方法について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来場者を対象とした具体的なプロトタイプ等を制作 ・展示内容・コンテンツの作り込み(各研究開発プロジェクト) 	<p style="text-align: center;">大阪・関西万博において 2040年、2050年の 未来社会像を表現</p>
会場外	MSシンポジウム 8/24,25	ムーンショット国際シンポジウム、その他関連イベントの企画準備	
広報	一般来場者を対象とした未来社会像の表現方法の調査・企画製作 関連学会等での先行展示、万博展示の宣伝		

戦略的イノベーション創造プログラム SiP 第3期

①実施概要

- SIPは基礎研究から実用化・事業化までを見据えて一貫通貫で、府省連携による分野横断的な取組を産学官連携で推進するプログラム。
- 2023年からのSIP第3期の開始にあたり、Society5.0の実現に向けて「第6期科学技術・イノベーション基本計画」からバックキャストで14課題を決定。
- 2025年度の大阪・関西万博の期間中に、シンポジウム等を通じて研究開発成果の発信を行う。

(実施主体) SIP課題関係者
 (実施場所) 会場内外、オンラインを想定
 (シンポジウム開催等)
 (実施期間) 一部期間



②今後の実施方針

- 2023年4月からSIP第3期を開始。
- 社会実装に向けて、技術開発のみならず、事業、制度、社会的受容性、人材の5つの視点からの成熟度レベル (XRL) の考え方を導入。
- 2023度は、研究実施体制を構築し、大阪・関西万博で発信する研究開発成果の検討・調整を行う。

③予算

令和5年度予算額 280億円

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/sip/sipgaiyou.pdf>

④工程表

2023年度	2024年度	2025年度
<p>SIP第3期 (2023年度～2027年度) ※SIP第3期の14課題の情報は、 https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/sip/sip3rd_list.html を参照。</p>		
<p>発信する研究開発成果の検討・調整</p>	<p>研究開発成果の発信の準備</p>	<p>大阪・関西万博期間中にSIPの研究開発成果を発信 (シンポジウム開催等)</p>

「共創の場」が創る“未来のありたい社会”

①実施概要

- ◆ SDGsやウイズ／ポストコロナを踏まえた未来のありたい社会像を実現するため、「共創の場形成支援プログラム」等の産学官連携事業により、大学等を中心に、産業界や地方自治体等とのパートナーシップによる研究開発や社会実装を推進。
- ◆ カーボンニュートラル、MaaS等のモビリティサービス、医療・ヘルスケア、食糧問題、気候変動等のさまざまな社会課題の解決を目的とした研究開発により、着実に社会実装の芽を創出。
- ◆ 大阪・関西万博においては、産学官連携事業の参画拠点による成果の発信、対話型コンテンツ等を通じて参加者が社会課題を自分事として捉える機会を提供。

(実施主体) コンソーシアム (文科省、参画拠点の大学・自治体・民間企業、業務委託先)

(実施場所) 会場内 (メッセを想定)

(実施期間) 開催期間中 (開催期間前後に複数の関連イベントを拠点と連携して実施予定)

②今後の実施方針

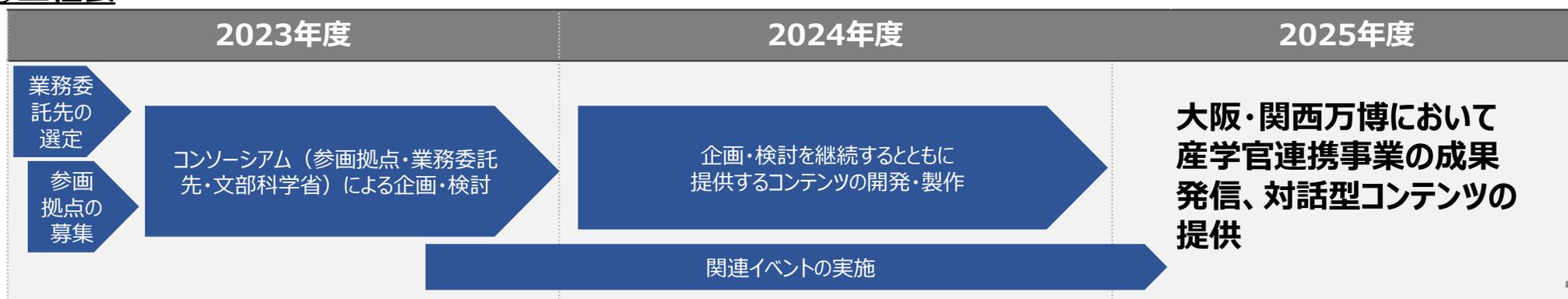
- 2023年度：コンソーシアムによる企画・検討
- 2024年度：コンソーシアムによるコンテンツの制作、関連イベントの実施

③予算

- 2023年度は既存の産業連携・地域振興課予算で業務委託に係る公募を実施



④工程表



被災地から生まれる未来社会に向けた創造的復興 (Creative Restoration) の発信

①実施概要

東日本大震災という逆境をばねによりよい復興(Build Back Better) を目指して力強く立ち上がる姿を、被災地発の未来社会に向けた復興企画を通して発信する。復興を通して生まれた最新技術・イノベーション・サービスなど、多様な挑戦の展示・発信や、被災地発の最先端の防災・減災に関する研究・技術に関する展示・催事やシンポジウム等を実施する。加えて、2023年4月に「創造的復興の中核拠点」を目指し設立された福島国際研究教育機構の研究内容等を含め、原発事故による急激な人口減少が進行した被災地における、先端技術・イノベーションによる創造的復興の姿を、課題解決先進地の新たなまちづくりモデルとして国内外に発信する。

なお、上記を通じて、被災地の交流人口・関係人口の拡大や、浜通り地域への自律的な進出・投資、新たな人による挑戦の促進、浜通りの新たなブランディング等も狙う。

(実施主体) 内閣府(防災担当)、復興庁、経産省、国交省、関係省庁、地元自治体、地元企業、被災地参入企業

(実施場所)

会場内：催事会場(メッセ、大催事場、小催事場、ギャラリー)、フューチャーライフパーク等

会場外：被災地域へのツアー、大阪府内や首都圏、被災地でのイベント等

(実施期間) 開催期間前 23年度～開催期間中



②今後の実施方針

2023年度は、展示・催事の設計に向けたコンテンツの企画や設計等を実施。合わせて、万博本番での誘客に向けた福島へのプレッシャーを実施。サブ会場等関連イベントの企画を実施。

③予算

令和5年度 「大阪・関西万博」を契機とした復興に向けた情報発信強化事業

令和5年度 予算額：32百万円

令和5年度 地域の魅力等発信基盤整備事業

令和5年度 予算額：239百万円の内数

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/fu/fukko_09.pdf

④工程表



スマート×グリーン技術の実証 (農業)

①実施概要

農林水産分野における環境負荷軽減に資する先端技術の実証・展示を行い、世界に日本の技術力を発信することで、持続可能な農業を推進する我が国の取組への理解醸成を図るとともに、日本産農産物や先端技術の海外展開拡大に繋げる。

(実施主体) スマート農業技術の実装に向けた情報発信ができる者

(実施場所) 会場内 (メッセ)

(実施期間) 一部期間 (1週間程度)

連絡先 農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課

03-3502-7438

会場で展示したいスマート農機のイメージ



ナシ自動収穫ロボット (電動農機)



ドローン

②今後の実施方針

- ・出展コンセプトの確定
- ・展示内容の企画・検討及び関係事業者に向けた機運醸成
- ・農業の生産力向上と持続可能性を両立させるスマート農業技術の情報発信を推進

③予算

令和4年度補正予算額 : 4,400百万円

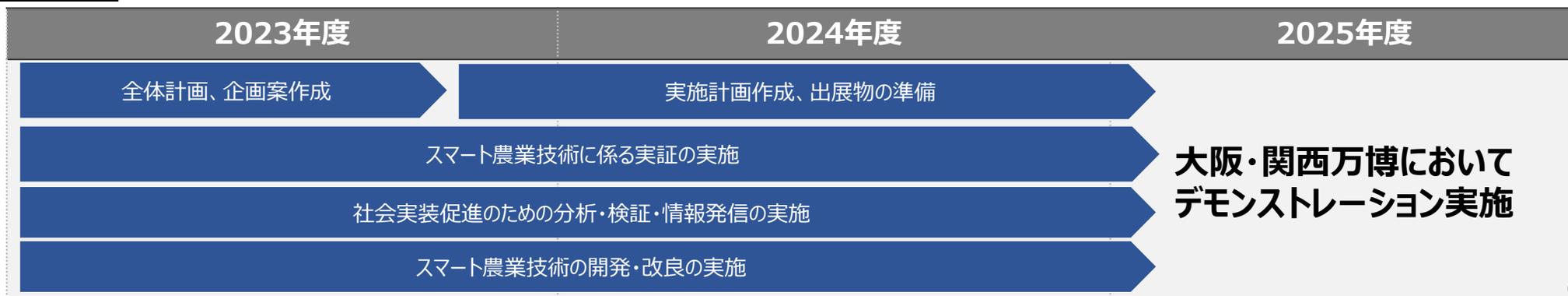
(スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト)

令和5年度予算額 : 1,196百万円の内数

(スマート農業の総合推進対策)

<https://www.afrc.maff.go.jp/docs/yosan/attach/pdf/mokuji-20.pdf>

④工程表



スマートxグリーン技術の実証（林業）

連絡先 林野庁 研究指導課 技術開発推進室
03-3501-5025

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kaihatu/morihub/morihub.html>

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kaihatu/morihub/attach/pdf/morihub-42.pdf>

①実施概要

林業は、造林から収穫まで長期間を要し、厳しい地形条件等による低い労働生産性や高い労働災害率といった特有の課題があることから、従来の施業方法等を見直し、ICT等を活用した資源管理や生産管理を行うスマート林業をはじめ、林業の特性を踏まえた新技術を活用し、林業の生産性や安全性を飛躍的に向上させる「林業イノベーション」の現場実装を推進している。大阪・関西万博において、きつい、危険、高コストの3K林業など従来の林業のイメージ払拭を図るため、会場内で、ミニチュア機械やシミュレーターを使った操作体験や先端技術を活用した機械等によるデモンストレーションを行う。

(実施主体) 先端技術を活用した林業機械等の開発・実証を行っている
林業機械メーカー等

(実施場所) 会場内（メッセ）

(実施期間) 一部期間（1週間程度）



(架線式グラブによる集材作業)

(先端技術を活用した機械の一例)



③予算

令和5年度予算額：70百万円の内数、令和4年度補正予算額：80百万円の内数

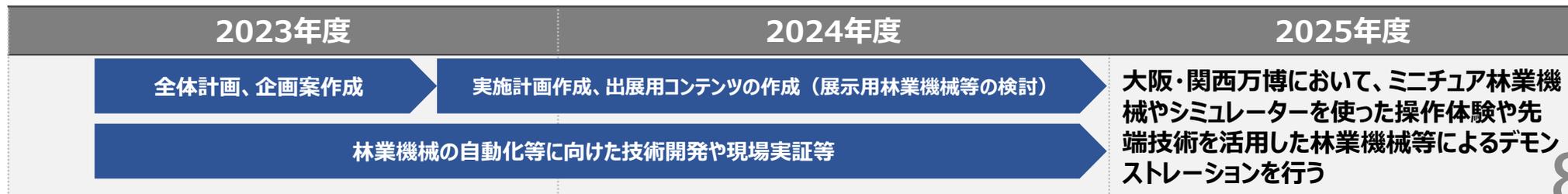
(林業デジタル・イノベーション総合対策のうち戦略的技術開発・実証事業)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/attach/pdf/R5kettei-5.pdf>

(林業機械の自動化・遠隔操作化に向けた開発・実証事業)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kaihatu/morihub/attach/pdf/morihub-37.pdf>

④工程表



スマート×グリーン技術の実証（水産業）

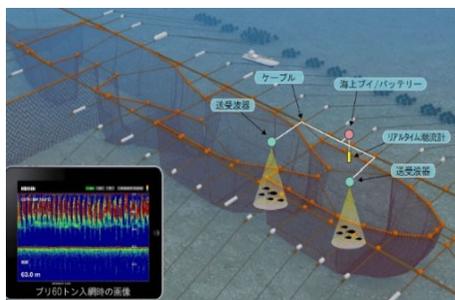
①実施概要

水産資源の適切な管理と生産基盤の強化に関する先端技術の実証・展示を通じて多種多様な漁業・養殖業や複雑な流通実態を擁する日本に適応した資源管理システム等の構築状況を世界に発信することで、水産資源の持続的な利用を推進する我が国の取組への理解醸成を図る。会場では機械の展示や映像で紹介することを想定。

（実施主体）スマート水産技術の実装に向けた情報発信ができる者

（実施場所）会場内（メッセ）

（実施期間）一部期間（1週間程度）



遠隔式魚群探知機
（日東製網株式会社より提供）



スマート機械展示イメージ
（ジャパン・インターナショナル・シーフードショー会場）

②今後の実施方針

- ・スマート水産業の本格的な現場実装を着実に進める環境の整備
- ・展示内容の企画・検討

③予算

令和4年度補正予算額：206百万円

（水産業スマート化推進事業のうちスマート水産機械導入利用支援）

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/budget/attach/pdf/index-19.pdf#page=25>

令和5年度予算額：545百万円の内数（デジタル庁計上）

（スマート水産業推進事業のうち

スマート水産業情報システム構築推進事業（漁獲情報収集・管理等デジタル化推進事業）

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/budget/attach/pdf/index-20.pdf#page=19>

④工程表



増大する食料需要等に応える代替肉・ 代替飼料などのフードテック事業創出の推進

①実施概要

代替肉・代替飼料、ゲノム編集食品、個人最適化食、3Dフードプリンター、AIロボットなど、農林水産・食品分野で実装が期待される先端技術を活用した製品の展示を通じて世界に日本の技術力を発信することで、国内外の関心を高め、フードテック等を活用した新たな市場の創出に向けた取組を推進する。また、国内外のフードテック関連企業が交流できる場を設定する。

(実施主体) フードテック業界

(実施場所) 会場内 (メッセ)

(実施期間) 一部期間 (1週間程度)

②今後の実施方針

- ・フードテックを活用したビジネスモデルの実証を支援。
- ・フードテック官民協議会において、フードテック推進ビジョンとロードマップに基づき、課題解決に向けた議論やマッチングを促進。

③予算

令和4年度補正予算額：396百万円の内数

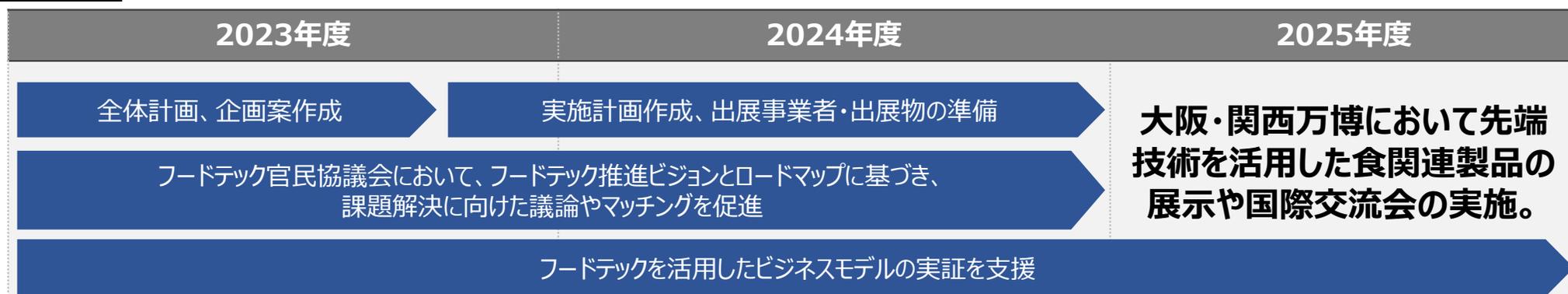
(食品産業の国際競争力強化緊急対策事業のうちフードテックビジネス実証支援事業)

令和5年度予算額：112百万円の内数

(新事業創出・食品産業課題解決に向けた支援のうちフードテックビジネス実証事業及び新事業創出・食品産業課題解決プラットフォーム運営委託事業)

https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r5kettei_pr32.pdf

④工程表

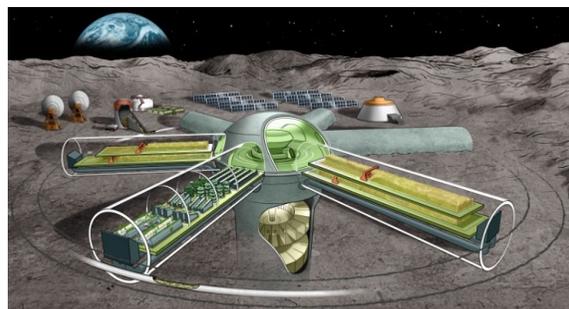


月面等における長期滞在を支える高度資源循環型食料供給システムの開発

①実施概要

月や火星での長期滞在を可能とし、地球の課題解決にも貢献するQOLを重視した高度資源循環型食料供給システムの構築に向けた研究開発の取組状況・成果を発信する。

- (実施主体) 宇宙業界
- (実施場所) 会場内 (メッセ等)
- (実施期間) 一部期間 (1週間程度)



②今後の実施方針

- ・各要素技術の研究開発
- ・関係省庁と連携し企画書作成

③予算

- 令和4年度予算額：7,330百万円の内数
(宇宙開発利用加速化戦略プログラムに係る戦略プロジェクト)
- 令和5年度予算額：10,390百万円の内数
(宇宙開発利用加速化戦略プログラムに係る戦略プロジェクト)

<https://www8.cao.go.jp/space/comittee/02-jissyou/jissyou-dai19/siryou2.pdf>

④工程表

2023年度

2024年度

2025年度

関係府省庁と連携し企画書案の作成、具体化に向けた検討、出展物などの準備

要素技術研究開発

- 栽培技術：人間の健康維持に必要な栄養素の大部分を満たすことのできる8種の作物の生産を可能とする栽培システムの実証モデルを開発
- 資源循環技術：食品残渣・糞尿からのメタン発酵等を用いた資源再生システムの開発
- 品種開発：ゲノム編集等による矮化や結実性の向上、良食味など閉鎖空間での栽培に必要なスペースをもつ品種の育成
- QOLマネジメントシステム：長期滞在における、チームのQOL維持・向上に貢献する「食」の支援ソリューションの開発

月面基地模擬施設での運用を想定した統合システムの設計

大阪・関西万博において取組状況・成果の発信

「みどりの食料システム戦略」の実現に向けたプロジェクト

①実施概要

生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」の目指す姿を具体化したモデル地区について、会場における技術や取組の紹介、リモート配信、現地ツアー等を通じて、環境と調和のとれた食料システムの姿を発信する。また、消費者の選択に資するよう、環境負荷低減の取組を「見える化」した表示を付した農産物の展示等を実施する。これらにより、環境と調和した持続可能な食料システムの構築を目指す。

(実施主体) 自治体、民間企業等

(実施場所) 会場内（メッセ）、会場外

(実施期間) 開催期間中（期間中の1週間程度）



AI・ドローンによるピンポイント散布による減農薬・減肥料

②今後の実施方針

環境と調和のとれた農業のモデル地区創出及び横展開、環境負荷低減の取組の「見える化」の推進 等

③予算

令和4年度補正予算額：3,000百万円

(みどりの食料システム戦略緊急対策)

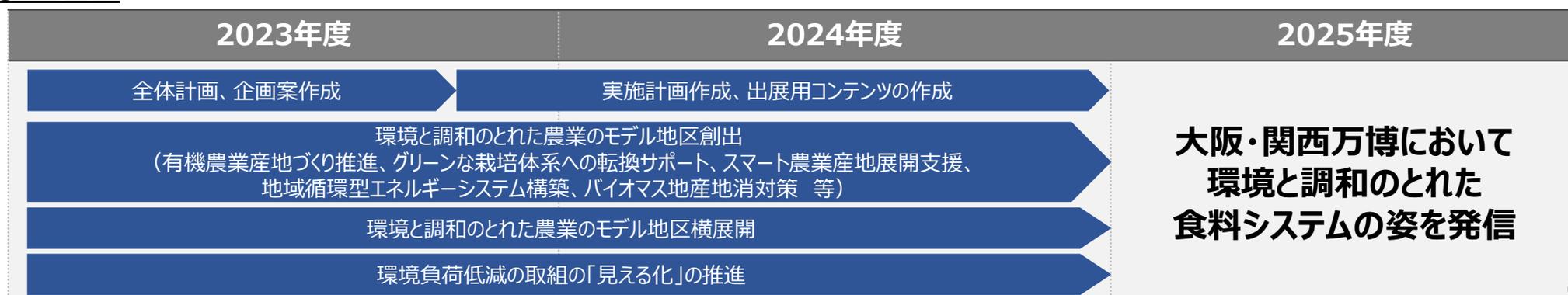
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/attach/pdf/index-15.pdf>

令和5年度概算決定額：696百万円

(みどりの食料システム戦略推進総合対策)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/attach/pdf/index-132.pdf>

④工程表



知的財産の活用による社会課題解決の実現

①実施概要

世界的な社会課題を解決し、SDGsを達成するためのツールとして、知財が有益であることを世界に発信する。

- I-OPENプロジェクトでは、スタートアップ企業等が、知財やビジネスに精通した専門家の伴走支援を受け、知財を活用しながら、社会課題解決のための取組を実施。万博では、プロジェクトを通じて生まれた知財活用事例等を、プロジェクトの実施過程も含め、展示・実演等によって世界に情報発信。
- 世界知的所有権機関（WIPO）等と連携し、社会課題解決に向けた知財活用の促進等に関する国際フォーラム等を開催
- 関係団体による展示・実演

(実施主体) 特許庁、I-OPENプロジェクト参加企業等、その他関係団体等

(実施場所) 会場内（メッセ、スタジオ）、会場外（展示場等）

(実施期間) 約1週間

②今後の実施方針

- ・プロジェクトの実施による事例創出、知見・ノウハウ蓄積等
- ・プロジェクト関係者等からなるコミュニティ構築の検討・実証
- ・万博等における情報発信方法の検討・整理

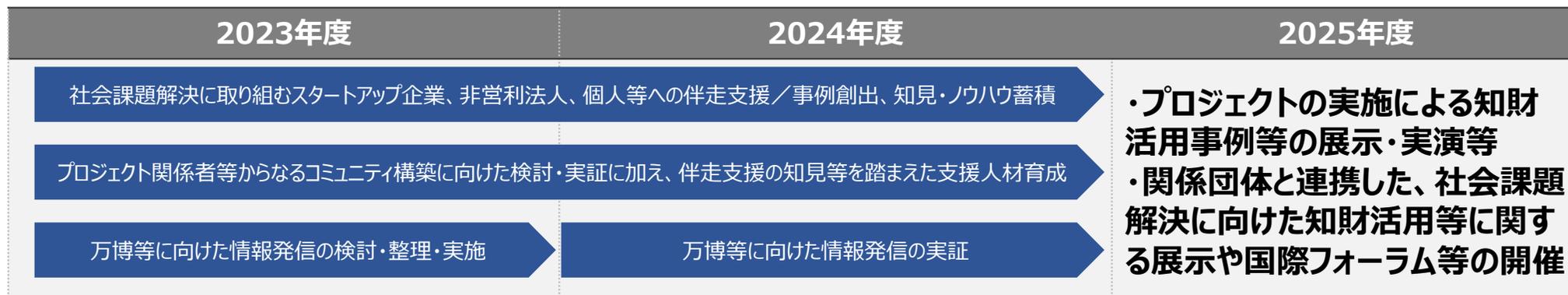
③予算

I-OPENプロジェクトについては、知的財産行政の情報発信調査事業

令和5年度予算額：151百万円の内数

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/to/tokkyo_27.pdf

④工程表



連絡先 経済産業省中小企業庁経営支援部創業・新事業促進課
03-3501-1767 (内線) 5342~5345
経済産業省中小企業庁経営支援部技術・経営革新課
03-3501-1816 (内線) 5351~5355

万博会場を活用した 未来思考の中小企業の魅力・価値の発信

①実施概要

- ・万博のコンセプト「未来社会の実験場」に合致する未来思考の製品コンセプト、テクノロジー、ものづくり技術等を有する中小企業の魅力・価値を世界に発信する。
- ・会場外での商談会、オンライン商談会等も併せて実施することで、出展者が普段リーチできない販路への拡大を目指す。

(実施主体) 中小企業庁・独立行政法人中小企業基盤整備機構

(実施場所) 会場内 (メッセを想定)

(実施期間) 一部期間

②今後の実施方針

基本計画、実施計画等を策定し、2024年度の企業選考、テスト展示会に向けた体制を整備。

③予算

独立行政法人中小企業基盤整備機構運営費交付金

令和5年度予算額：18,345百万円の内数

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/ip/chuki_01.pdf

④工程表



Global Startup EXPO 2025 (仮)

①実施概要

地球規模の課題解決にスタートアップが果たす役割が期待されている中、世界中からスタートアップ関係者を呼び、課題解決に向けてビジネス交流等の対話を通じて解決策を模索する。

具体的には、社会課題解決に関心の高い世界的なVC、機関投資家を招へいし、J-Startup、J-Startup地域版等をはじめとする、日本のスタートアップの技術・サービスを世界に発信し、世界のスタートアップを交えた、セッション、ピッチイベント、企画展示等を実施。

(実施主体) 経済産業省・独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 等を想定

(実施場所) 会場内を想定

(実施期間) 一部期間を想定

②今後の実施方針

- ・ カンファレンスに向けて、企画・開催を進める。
- ・ 効果の最大化を目指し、カンファレンス前後におけるイベントの開催を検討する。

③予算

—

④工程表

